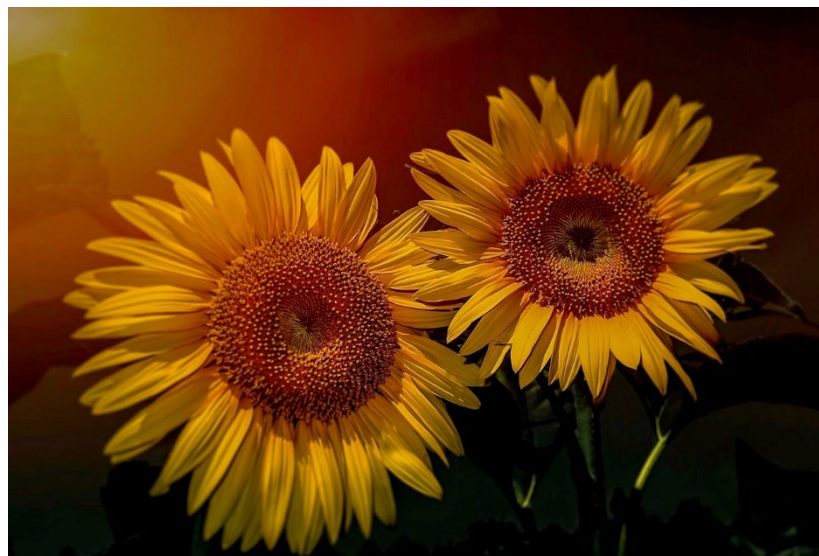


目 次

1. 「令和3年度事業」の報告	
広大マスターズ版「タウン&ガウン・プロジェクト」報告	2
2. 「令和4年度事業」のご案内	
(1) 第16回広大マスターズ主催オンライン講演会について	3
(2) 広大マスターズ講師派遣講座	
(2-1) 2022年度夏期日本語・日本文化特別研修	4
(2-2) 広島リカレント学院講座	4
(2-3) ちゅーピーカルチャーセンター講座	5
(2-4) 東広島市民講座	5
(3) 広大マスターズ例会（ウォーキングを含む）	5
3. 「会員エッセイ」コーナー	
白竜湖リゾートに天文台とプラネタリウム	6
白竜湖リゾートの運動施設について	7
シルバー・ワンダラー奮登記	8
4. 会員情報	
(1) 新入会員について	13



広大マスターズ版「タウン&ガウン・プロジェクト」報告

広大マスターズ幹事 渡部 和彦

広大マスターズ (HM) は、東広島市から令和3年度地域貢献事業として、「広島大学マスターズまちづくり学生発表・交流会事業」の支援を受けた。この背景には、東広島市新規事業：名称「タウン&ガウン」プロジェクトがある（広報誌：「ひがしひろしま」No. 571, 11月号, 2021）。これは、市と大学（広大）との連携・協力により、スマートシティの推進、市の諸課題に対する大学の研究支援、新機軸を生み出すまちづくりで、市の活性化を図るとしている。

HM は、東広島市「地域課題懸賞論文」の審査委員会の立場から継続的に関わったが、事業は打ち切りとなった。その後継事業について市との交渉が行われた結果、HM の新規事業は、「タウン&ガウン」の一部に組み込まれる形となり、「広大マスターズ T&G プロジェクト」として、HM が独自のプロジェクトとして進めることとした（事業費 50 万円）。

HM の立ち位置、活動方針・活動内容の検討が困難（コロナ禍で関係者会議が開かれず）。市の担当者の説明を受けた後、「身の丈」に合う内容を構想した。すなわち、「タウン」を「町」と位置づけ、地域社会（コミュニティ）を前提とし、更に身近な、「住民自治協議会」等と位置付けた。「ガウン」は、広島大学「学生・留学生」を対象とした。

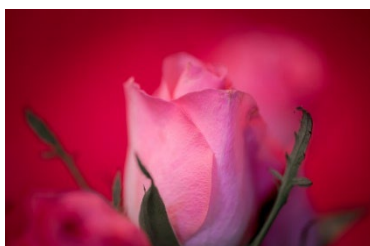
主旨：「学生」の多くは、生活の中心が大学周辺で、在籍する数年間、東広島市に住んでいても、本市の歴史・文化、自然、名所・旧跡の体験や、地域住民との交流機会があまり無いまま、卒業する学生は多い。卒業後、再び訪ねてみたい町 (Town)・東広島であってほしい。また、留学生には、帰国後、本市の魅力：歴史・文化・産業等を含め、文化・観光大使として、魅力を母国に伝えてほしい。そうでなければ、「もったいない」との考えが基本。

本プロジェクトは、市内3カ所の「住民自治協議会（住自協）」の協力で、研修が実現。訪問地の選定は、本市の特徴を反映することを考慮した。まず、広大近くに位置し、人口増加が特徴で、住自協の活動が活発な、①下見地域（A班）。少子高齢化ながら、地域資源、歴史の魅力づくりに積極的に取り組む、②安芸津町（B班）および、③豊栄町・乃美（C班）の3地域を選定。各班は、学生4名（留学生2，学生2名）。全員：12名の構成。

各地域では、住民自治協議会関係者の講義が行われた。地域の歴史、文化、産業、等を、スライド、紙媒体資料等で、専門的な講義で紹介していただいた。HMからは、各班2名ずつ案内役（時には、留学生の通訳）として、講義等・研修に参加した。

3か所とも、充実した講義内容で、参加学生からは、高い評価と謝意が得られた。3グループの研修内容は、「ミライクリエ」での「シンポジウム」発表会で、研修成果が発表され、相互の研修内容の理解を深めた。シンポジウム会場には、各住民自治協議会関係者の参加があり、コメントをいただくなど、活発な意見交換が行われた（マレーシア留学中の学生、市役所職員は、オンライン参加）。この企画の継続を願う学生、留学生の声が聞かれた。

ご協力いただいた、住民自治協議会・地域の皆様、参加学生の皆さま、東広島市、広大本部、HMスタッフの皆様方に、心から感謝申し上げます。有難うございました。



「令和4年度事業」のご案内

(1) 第16回広大マスターズ主催オンライン講演会について

広大マスターズ幹事 谷本 能文

日時・場所：2022年9月17日(土) 13:30~14:30/オンラインで開催(Zoom)

講師：藤井博信先生(広島大学名誉教授・広大マスターズ幹事)

演題：『脱炭素社会の実現を目指す自動車のゆくえ』

参加申込締切：9月10日(土)

申込先：参加希望者の氏名(ふりがな)・メールアドレスを明記の上、
yt1112@hiroshima-u.ac.jp(谷本幹事)宛てお申し込みください。

参加者には開催日当日開催時刻の30分前に招待URL及びミーティングID・パスコードをメールでお知らせします。招待URL等からご参加ください(アカウント不要)。

問い合わせ：広大マスターズ谷本幹事・電話080-3871-8850

広島大学マスターズ主催オンライン講演会

『脱炭素社会の実現を目指す自動車のゆくえ』

講師：藤井博信(広島大学名誉教授/広大マスターズ幹事)



略歴：1941年新潟県に生まれる。広島大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士(広島大学)。広島大学教養部助手、総合科学部助教授を経て、1986年同教授。2003年同大自然科学研究支援開発センター長。2004年3月定年退官後、2004年4月から3年間特任教授。2007年~2012年広島市立大学特任研究員。1998年国際水素機能協会業績賞受賞、2000年中国文化賞受賞。専門は物理学、機能材料物性学

司会：谷本 能文(広島大学名誉教授/広大マスターズ代表幹事)

日時：2022年9月17日(土) 13:30~14:30

場所：オンラインで開催(Zoomアプリを使用 双方向)

講演要旨：私達は、日常生活のエネルギー源として、石炭、石油、天然ガスなど化石燃料を使用してきました。現在、それらの大量使用によって、大気中の二酸化炭素 CO₂ の濃度が増大し、地球温暖化による深刻な異常気象(亜熱帯の砂漠化、ゲリラ豪雨による大水害、大型台風など)が発生しています。2019年、IPCC(気候変動に対する政府間パネル、国連と世界気象機関が作った2500人以上からなる気候変動に関わる科学者組織)は1.5°C特別報告書を公表しました。つまり、世界共通の長期目標として、産業革命前からの地球平均気温上昇を1.5°C以下に抑えることが極めて重要であり、そのためには、CO₂ の排出量を2010年に比べて2030年度までに45%以上削減し、2050年度頃までに正味ゼロにする必要があることを公表しました。2021年に開催されたCOP26(気候変動枠組条約第26回締約国会議、約200か国参加)では、この削減目標に沿った行動をとらなくてはならない点で世界的な合意が得られましたが、各論では様々な分野で意見の一致は得られませんでした。運輸部門の中で、特に自動車産業分野では、2035年までにガソリン車・ディーゼル車の販売を禁止し、2050年頃までに、CO₂ 排出ゼロ車やカーボンニュートラル車の実用化が図られるべきであるとの提案がなされました。大枠では意見の一致が得られています。これまで、日本では、環境対策車として、電気自動車、燃料電池車、プラグインハイブリッド車、水素燃料車、バイオディーゼル燃料車、メタネーション燃料車(水素とCO₂ からメタン(CH₄)などを生成し、それを燃料とする車)など先駆的な開発研究が行われてきました。本講演では、これらの技術をいかに組み合わせ、実用的な脱炭素社会の実現を目指す自動車が開発されていくのか考えてみたいと思います。

主催：広島大学マスターズ 共催：広大マスターズ友の会

(2) 広大マスターズ講師派遣講座

(2-1) 2022 年度夏期日本語・日本文化特別研修

広大マスターズ幹事 渡部 和彦

令和4(2022)年度の標記研修は、新型コロナ禍のため、オンラインでの講義を行いました。

受講生は、台湾：8名、中国：169名、非漢字圏：5名

広大マスターズからは、下記の2名の講師が講義を担当した。

講義テーマについて

- ・金田 晋： 「日本の絵画－鳥獣戯画の世界」
 - ・渡部 和彦： 「日本の伝統スポーツと礼－武術から武道へー（日本のスポーツ科学紹介）」
- 渡部は、広大剣道部学生の協力で、有効打突部位、日本剣道型の演技、華道、茶道等との共通点等を紹介。最後に、全受講生と共に、「メン」打ち動作と「メーン」発声で終了した。

(2-2) 広島リカレント学院第3期(2022・令和4年度)の講座について

広大マスターズ幹事 渡部 和彦

広島リカレント学院第3期の教養講座及び専門講座への講師派遣を行っています

派遣講師名および講義題目を報告します。(専門講座は2件)

- ・教養講座：
 - 安藤 忠男 (SDG s が拓く人類の未来)、
 - 小方 厚 (音楽と物理学)、
 - 難波 平人 (平和と美術)、
 - 青木 孝夫 (21世紀に届ける日本の美意識と芸術)、
 - 室岡 義勝 (貴方も食べています：遺伝子組換え食品(安全?必要?))、
 - 保坂 幸男 (お米の話(精米・選別・健康))、
 - 谷本 能文 (ひかりと私たち)、
 - 沖村 雄二 (日本の庭園文化－全国の庭石・名石－)、
 - 鳥谷部 茂 (災害弱者への支援－東日本大震災から南海トラフ巨大地震等への教訓)、
 - 今岡 光範 (数学による多様な図形認識 パート3:曲線に関して)、
 - 白浜 博幸 (界面化学とバイオマテリアル(生体内医療材料開発における界面化学の利活用))、
 - 早瀬 光司 (哲学するって、どういうこと(茶室の掛け軸を読み解く))、
 - 加藤 範久 (フレイル(虚弱)と食生活)、
 - 川崎 信文 (改めて自治体議会の任務を考える(2023年統一地方選挙を前に))、
 - 伊藤 詔子 (オバマのヒロシマ・スピーチと千羽鶴のナラティブ(HM 枠))、
 - 相田 美砂子 (ジェンダーギャップ指数とは)、
 - 高田 忠彦 (産学連携の話)、
 - 原野 昇 (フランス語の起こり)、
 - 渡部 和彦 (第15次南極観測越冬隊：自然・生活・研究)、
 - 牟田 泰三 (文字はどのようにして生まれたのであろう)
- ・専門講座：
 - 「英会話」 (三浦 省五)、
 - 「健康ウォーク」 (渡部 和彦)

(2022年8月23日現在)

(2-3)「ちゅーピーカルチャーセンター」に今年度も2講師派遣

広大マスターズ幹事 金田 晋

ちゅーピーカルチャーセンターには今年度も2講師を派遣しています。創設時以来の両講座は10年目を迎えました。難波平人会員の「水彩・油絵」(毎月・第1金曜日)と金田晋会員の「美術の世界」(毎月第2・第4金曜日)。難波教室は受講者12名(6月末現在)で、多くの受講者は、難波会員がほぼ毎年開いている東広島市教育委員会主催市民講座「東広島を楽しくスケッチしよう」の作品展(於くらら市民ギャラリー)にも、出展しています。金田教室は受講者14名(6月末現在)。東広島市民だけでなく、広島市から5名、三原市から1名が毎回参加。6月末には、ひろしま美術館特別展「風景画のはじまりカラーから印象派へ」を団体鑑賞し、鑑賞後別室で古谷可由同館学芸部長から特別解説を受けました。

(2-4) 東広島市民講座

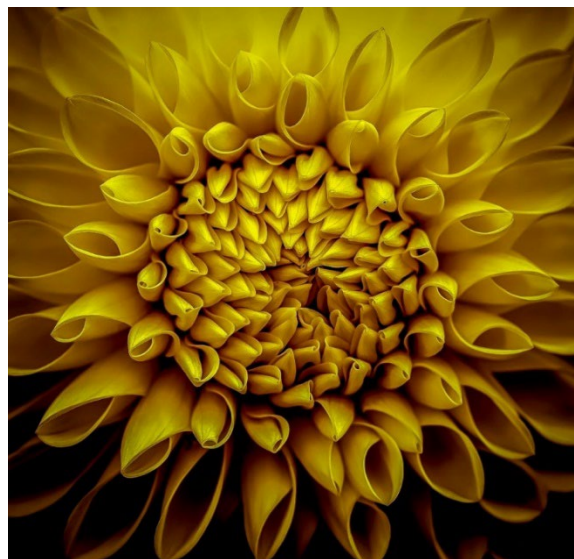
広大マスターズ幹事 三浦 省五

令和4年度前期には、「東広島を楽しくスケッチしよう(福富町編)」(難波平人講師)、「楽しいドイツ語入門:前期」(吉田光演講師)と「小学生のための実戦的な将棋講座」(早瀬光司講師)の3講座を企画・実施した。ドイツ語講座は、コロナの感染者が減少しないために参加者定員が半減され、さらに、将棋講座と共に換気環境状況の良い東広島市市民文化センターに会場を移動した。後期は、前期に引き続き、「楽しいドイツ語入門:後期」(吉田光演講師)と「市民に身近な法律問題」(鳥谷部 茂講師)の2講座を実施予定である。

(3) 広大マスターズ例会

広大マスターズ幹事 谷本 能文、渡部 和彦

「ウオーキングの会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止としました。



白竜湖リゾートに天文台とプラネタリウム

広大マスターズ 牟田 泰三

広島空港の北に白竜湖という風光明媚な人工湖があります。白竜湖は、昼間の景観のみならず、夜は星空の美しいところです。この湖畔に「白竜湖リゾート」というホテルがあり、コロナ禍で旅行関係事業が軒並み苦戦している中で、元気な姿を見せています。川口社長によると、こんなピンチの時こそ、ホテル内の改装整備を行うチャンスだととらえて、ホテルの大改造に取り組んでいるとのこと。

ホテル白竜湖リゾートは「免疫力向上ホテル」というコンセプトを掲げてリニューアルされています。このコンセプトによると、体と心の健康を保つことによって、免疫力を向上させ、感染症などに負けない健康な生活を送ることが保証されるということです。

身体の健康は、ホテルの素晴らしい食事と、渡部和彦広大名誉教授ご指導の下で進められているジムやウォーキングコース新設・整備によって生まれます。

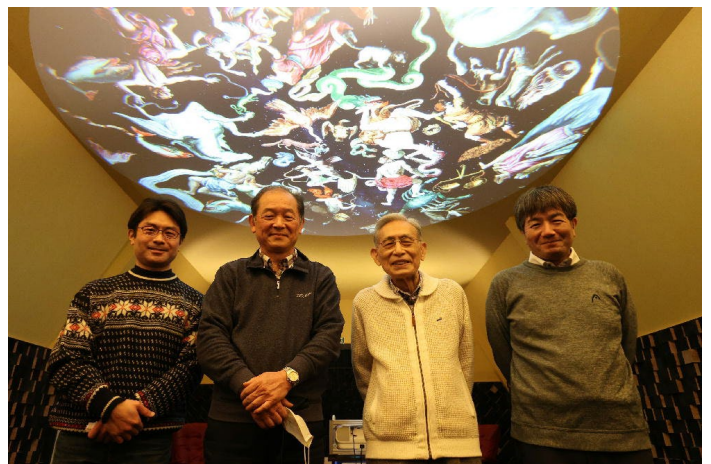
他方、免疫力アップのためには、心の健康も保たれなければなりません。そのために静かな音楽を聴きながら憩えるリラクゼーションルームができあがりしました。さらに、白竜湖名物の美しい星空を観察するために、大望遠鏡を備えた天文台が完成しました。夜空は晴天ばかりとは限りません。曇ったり雨や雪では折角の星空を楽しむことができません。これでは、宿泊客の皆さんをがっかりさせてしまいます。そこで考えられたのがプラネタリウムです。先程述べたリラクゼーションルームに素敵なプラネタリウムが併設されました。

昨年（2021年）夏頃に、プレスネットの川口社長から、この総合開発企画について相談を受けて、私も大賛成で、即座にアマチュア天文家などとも話し合っただけで白竜湖星空プロジェクトチームを立ち上げました。チームメンバーは、川端弘治（広大宇宙科学センター長）、坪井正紀（広島天文協会会長）、橋本裕二（広島天文協会会員）、松本佳也（広島市こども文化科学館学芸員）および牟田の5名で構成しました。

昨年9月26日には、ホテル白竜湖リゾートで、天体観測室とプラネタリウム投影室を設けるための検討会を開き、望遠鏡の機種選定、天文ドームの位置決定、プラネタリウムの設置場所などについて話し合いました。天文ドームの設置場所については、最良の結論を出すことができました。天体観測室とプラネタリウム投影室の完成目標を来年春とすると、もうあまり時間が無いので、早急に機器の見積もりと発注を行うこととしました。

プラネタリウムに関する経験の深い松本さんを中心に、まず、プラネタリウム計画が急ピッチで進められ、アルタイル社社長加藤治氏の来訪を受け、投影機の機種選定と天井の構造決定が行われました。プラネタリウム・リラクゼーションルームは、2022年1月には完成し、1月23日（日）の午前中に試写及び説明会が行われました。予想以上の出来映えで大満足です。

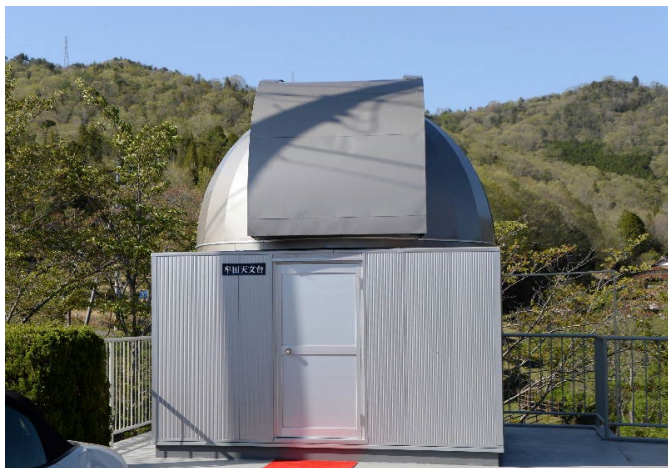
一方、天文台と望遠鏡の設置については、チームメンバーのひとりである牟田が、2021年10月末に手術入院したため、計画遂行が遅延する



プラネタリウム

というハプニングがあったものの、チームメンバー坪井、橋本両氏と天文ハウス・トミタの富田社長のご努力により、2022年3月には完成に漕ぎ着けることができました。望遠鏡は25cmミードとそれに同架した屈折望遠鏡ですが、将来的には35cmセレストロンC14を導入する予定です。すでに完成して稼働中のプラネタリウムと相まって、訪れるお客様の心を癒やす星空を見せてくれると思います。

天文台はホテル玄関前に姿を見せています。台内は電子設備も完備しており、アマチュア級では最高レベルのものになっています。今後は、ホテルスタッフの皆さんと連携しながら、お客様にいろいろな星空イベントを紹介するプログラム作りをすすめていきたいと思っています。



天文台外観



台内で説明中

白竜湖リゾートの運動施設について

広大マスターズ 渡部 和彦

今年の春（2022年3月3日）三原市大和町「白竜湖リゾートホテル」内に、運動施設がオープンしました。運動施設の名称は、「ワタナベ バランス・ジム」といいます。

「ジム」を含め、「白竜湖リゾートホテル」施設全体の基本理念は、「免疫力向上」です。これからの「健康長寿社会」で求められる健康づくりには、「運動」・「栄養」・「休養」のバランスの取れた、生活習慣づくりが重要とされています。この基本的理念を基に、日常生活に活用できる、健康づくりを経験（体験）できる場の提供を目的としています。

「ジム」では、中・高齢者を主な対象とした、運動プログラムを提供します。「身体運動」は、健康づくりのための主要な柱の一つです。それは、「体力」の維持・向上のために欠かせない手段でもあります。

さて、「体力」の概念には、スポーツ選手に求められる「競技力向上体力」があります。しかし、この「ジム」では、これとは別の概念、「(自立的)生活体力」向上が目的です。すなわち、QOL（生活の質）の向上を目的とするものです。

「ジム」には、大型の筋トレ用マシンは、ありません。その代わりに、寝そべて各種の運動（体操）ができる、畳スペースや姿勢・動作を観察できる超大型ミラーが設置されています。安全な、筋トレ用鉄アレイ、セラバンドの他、肋木（ろくぼく）も設置しています。

運動プログラム内容は、1) 健康体操：「ダイナミック・ストレッチング」、2) 筋力：自重負荷法&持久力プログラム、3) 姿勢・呼吸・バランス機能、4) 歩行&転倒回避、他。

「ワタナベ バランス・ジム」の特徴：

健康チェック機器：' In Body' システムで、身体の筋肉・脂肪のバランスが、2分程度で測定できる装置、野菜摂取バランスの評価が30秒で可能、立位バランス評価等、転倒回避訓練装置、生活基礎体力測定機器、歩行動作等解析装置等々、中・高齢者の運動機能の評価と訓練ができる「ジム」です（健康、生活体力の測定・評価の装置充実に経費を回しました）。

「地域の健康づくり指導者育成講座（2時間・2回/月）」では、「健康づくり運動（ダイナミック・ストレッチング）」理論+実技を地域住民が受講（定員15名・満席）。

運動後には、お風呂、食事、プラネタリウム等が楽しめます。

追記：広大マスターズ有志が、オープン後間もなく、白竜湖リゾートホテルを団体で利用されました。「ジム」で健康づくり運動プログラム実践後、牟田天文台で（昼の）火星観測、プラネタリウムを見学後、岩風呂、食事を満喫後、送迎バスで西条に戻りました。

「ワタナベ バランス・ジム」は、このような所です。どうぞ、ご利用ください。

シルバー・ワンダラー奮闘記

広大マスターズ 室岡 義勝

富士山には一度は登るべきとか。しかし「富士に2回登るばか」という言葉があるそうです。これは、「雲の平に80才で2回登ったばか」の記録である。

今年の4月、ワンダラー後輩の宮原君から「雲ノ平に又行く気はないでしょうね」と誘われたのがきっかけである。昨年、彼とHさんと行く計画を立てたが、二人とも手術が入ってキャンセルのくやしい思いをされた由。「単独行はダメ」と、家内がついてきてくれた。ところが家内の方が健脚で、「ちょっと待ってくれ」連発の情けない話。コースタイムの1.5倍かかったが、念願の雲の平往復を成し遂げた。いろいろな理由から、8月下旬、新穂高温泉から往復するコースになった。今回行くなら、雪渓が残る、花の季節の7月下旬で、富山県の折立から入り、裏銀座縦走路を逆にたどり、祖父、水晶、野口五郎、烏帽子、からブナ立て尾根を降り高瀬ダムに降り立つコースを計画した。表銀座、裏銀座とは、東京・大阪から金曜日の夜行列車で信濃大町に、槍ヶ岳めざして北アルプス縦走して、月曜日朝出勤という、昭和30、40年代の人気縦走路のこと。

今年（2022年）の4月26日、雲ノ平山荘予約受付開始。電話して、7月27日に取りあえず4人分確保。かつての仲間を勧誘するが断られる。皆さん見識があったね。単独で念願の雲ノ平を計画していた横浜の乗本君が参加してくれることに。ダメ元で奈良の谷本君を誘ったところ、「82才、最後に這ってでも行きたい」と快諾。まさか言うことも無いだろう。でも、そうなんです。宮原、乗本君は谷本君と僕が3年生の時の新入部員。この3君は、大学時代の黄金コンビ。僕を入れて(?)黄金4勇士になるはずだった。僕の心臓と腎臓は一部機能していない。M君は心臓と体幹に問題あり。T君は富みに筋肉低下の悩み有り。完全体はN君のみ。頭の方は今のところ問題ないようだ。

戻り梅雨が明けて、高気圧が張り出してきたが、ロシアや北朝鮮の低気圧に負けてしぼんでしまった。週間予報で一喜一憂の毎日。富山地方鉄道で待ち合わせ、立山温泉に25日の宿を取る。明日からの健闘を祈って生ビールと地酒『立山』で乾杯。明日は晴れ予報で幸先が明るい。

7月26日 6時半、有峰口からタクシーで折立登山口に。沢山の車が駐車場からあふれている。薬師岳が最近の人気スポットらしい。折立から太郎平小屋まで標高差1043mの登り。ヤマケイのコースタイムでは3時間50分。M君の補正計算式では、シルバーパーティー想定時間約6時間。4人の黄金勇士はそれぞれ山歴60年のベテランぞろい。そこで、毎日リーダを変えて、任すことになった。今日のリーダはM君。

最初の三角点まで標高差500mの急なシラビソの森の登りが続く。径は良く整備されている。ま一言ってみれば宮島の弥山までの登り。でも、10kgの荷物を背負っている。小屋まで水場がないので、2リットルの水を背負った。時折、森の切れ目から有峰ダムが眼下に見える。突然開けた場所に出た。三角点だ。青空の下、懐かしい夏山が広がっている。薬師岳の頂上付近はガスがかかっているが、その動きは速い。すれ違う登山客と「晴れましたね」と挨拶。テントを背負った単独行の若い女性も多い。行動中はマスク無し。換気の効いた山中だもん。

ここからまだ標高差500mの緩い登りが続く。小石で埋められた階段状の径が整備されている。展望の良く広く広い草原には、コバイケイソウ、イワイチゲ、ニッコウキスゲの群落が続く。緩い登りと言っても、結構きついよ。登れど登れど、五光岩ベンチに着かない。T君かなり遅れて、後ろから「おーい休もう」と、安心させてくれる。かつて、「ワンゲルに谷本有り」とならしたT君なのだ。やっと、太郎平小屋が見えてきた。径の両脇にチングルマの群落、コバイケイソウが挙手をして迎えてくれる。広い丘陵に立つ小屋前には高山植物が咲き乱れている。風が冷たいので小屋に転がり込んだ。3時過ぎ着。8時間かかった。でもこれであと3日間歩けそうな気がしてきた。

山小屋の2段ベッドは4人毎に区切られていて、布団4枚敷くといっぱい。談話室でビールを飲みながら（僕は北海道牛乳）団らん。読書家のN君、僕の昔の本を持参して質問してくるのには恐れ入った。

7月27日 朝方まで降っていた雨は止んでいる。薬師岳は雲の中。深い緑の黒部溪谷の向こうに濃緑色の巨大な大地が見える。雲ノ平だ。どこからも人を寄せ付そうにない急峻な稜線。もののけ姫の深い森と静寂。あの台地には古代からの神が宿っているに違いない。北アルプス最後の秘境と言われる由縁だ。黒部五郎方面に登っていくパーティーが幾つか見える。黒部溪谷に下るパーティーは少ない。ぬれた急な径を下り始めると、ニッコウキスゲの黄色い群落が目を楽しませてくれる。

今日のリーダはN君。10分ごとに立って休む。20分ごとに小休止。あと5秒で出発とつれない。黒部川までの下り600m。その間大きな徒渉が3箇所と地図にある。雨が降り出して慌てて雨具を着ける。最初の大きな徒渉地点には、鉄の板橋が架かっていた。濁流がゴウゴウと流れている。数えたら、大小10箇所以上も徒渉地点があった。夏場は、それらすべてに橋が渡されているので安心だ。でも、平均台の苦手な人、高所恐怖症で目がクラクラする人はだめ。丸太板一枚のもあるし、どの橋も手すりや掴むロープは無いのだから。雨の中、下るのがいやになった頃、薬師沢小屋に到着。

狭い入り口は雨宿り客でいっぱいだ。小屋の娘さんが親切に「上がって休んで下さい」とすすめてくれる。今日のリーダが、イケメンで良かった。コロナ援助寄付を千円させてもらって、食堂で持参のランチをとる。お茶までいただいた。温かくておいしかった。1時間休憩のつもりでくつろいでいたら、Nリーダの「出発！」のつれない号令。

でもね、試練はこれからです。濁流渦巻く黒部川に架けてある鉄の釣り橋を渡り、鉄の階段を這って降る。これから雲ノ平まで858mの登り。聞きしに勝る悪路の急登。雨は容赦なく降る。

円いゴロゴロした大きな岩や丸い小さな石や岩を掴みながら這って登る。まるで沢登りだ。試練はこれだけではないのです。薄暗い澤の中にブト（ぶゆ）がわんさと待ち受けて、目の中、鼻の中、耳の中に入り込む。払っても払っても敵数にはいかんせん。T君など半ズボンですねこ出しているの、攻撃されっぱなし。ザックをドカッと投げ出して休んでいても、防戦一方。登っても登っても岩の連続。さすがのNリーダーも10分、20分休みの規則を投げ出した。そうそう、このNリーダーのすごいところは、雲ノ平から烏帽子を降りるまで水場がないので、皆の非常時に4リットルの水を太郎平小屋から担いできていること。我々はその恩恵にあずかるのだけど。今は、水なんかいらぬ。やけっぱち。しかし、いつ果てるとも思えない登りもその内果てるのです。人間の足ってたいしたものですね。一步一步努力すれば、目的に近づくのです。勉強もそうだと思います。早く知っていればナ。

木道が出てきたら登りが緩やかに。雨も止み霧が立ちこめている。色とりどりの花にも目を向ける余裕が。花の名前？かつて仲間で歩いたツール・ド・モンブランのガイド君言っていたね「日本人はどうしていちいち花の名前聞くの？どうせすぐ忘れるのに。どれも、これも花、花」。この名言大好き。アラスカ庭園で休憩。やって来ました雲ノ平。ここは、その西の端。回りはシラビソの森。濃い緑の森の中、雷にせかされて足取り重く木道を歩くこと一時間半、突然右上に雲ノ平山荘が見えた。16時、着いた着いた。

山荘のお姉さん、親切に「乾燥室で、濡れたものを湯かしてきて下さい」と言って、一人に2本ずつハンガーを渡してくれる。やっぱりイケメンリーダーの効果かな。それとも、濡れそぼって憔悴した老人への同情か。地下の乾燥室は着物のジャングル。掻き分け掻き分け奥に進み、隙間に濡れたザックカバーや雨具をつるす。後で靴下やスパッツも架けにくる。T君自慢のふんどしは乾かさぬようにと皆で助言。寝場所は去年泊まった屋根裏の下の階の大部屋。生き返ったこちら。今日は、雨なので臨時の登山客を受け入れて混雑しているとのこと。この山荘は、釘を使わない日本建築で木のぬくもりが感じられ居心地が良い。夕食は名物の石狩鍋。3人はビールで乾杯。僕はお茶で代用。M君もN君も満天の星と天ノ川を観るのを楽しみにしていたが、ガスっていてお預け。

7月28日 朝5時、食堂の窓から見える景色に目を見張る。青空の下、緑の絨毯に点在する池嶋の遙か向こうに笠ヶ岳が優美な姿を浮かべ、黒部五郎、三俣蓮華、鷲羽岳が雲ノ平を取り囲み、北鎌尾根、大天井岳の表銀座が遠くに外壁を巡らしている。反対側の窓からは、水晶岳こと黒岳の双耳峰が間近に見える。薬師岳の山頂はガスに覆われて見えない。5時45分出発。今日のリーダーは、T君。



雲ノ平から望む笠ヶ岳

木道の回りは高山植物の花盛り、花に見とれて僕は遅れ気味。キャンプ場別れから登りになり、祖父岳分岐に到着。まっすぐ行けば、日本庭園を経て黒部源流、三俣蓮華山荘に至る去年のコース。我々は、祖父岳を越えていく。登り始めると視界が広がり、黒部五郎岳の美しいカールが見える。登りながら何度も何度も振り返って雲ノ平とその向こうの景色を目に焼き付ける。この時期、雪渓が多く残っていて、いかにも夏山らしい。もちろん、周辺は名のある花、花。

頂上から、電波が通じたので家内に無事を伝える。「昼頃、雨雲が通り過ぎるけど今日は快晴よ」と教えてくれる。ここで出会った、ご主人68才のご夫婦と娘さん、娘さんがワンゲルだったので心強いとか。彼女、残念ながら広大の後輩になり損ねた由。我々が、80才パーティーと知って、ご主人は今回が最後かと思っていたが、「未だ10年は楽しめるね」と奥さんから激励されていた。

今日の行程は、M君計算で登り977m、下り631mのアップダウンの連続で、9時間37分の予定。この分じゃ、午後4時到着は無理だな。黒部源流上の岩苔乗り越しまでは一応順調。右手、鷲羽岳の麓の台地に三俣蓮華山荘の赤屋根が見える。左手向かいには、水晶岳が聳えて、我々の到着を待っている。しかし、この広々とした稜線の登り結構しんどい。途中のハイマツに座って、今降りてきた祖父岳を正面に左右の景色を見ながら昼食。

水晶小屋の側で、N君から水を分けてもらう。日本100名山の水晶岳、ここまで来て登らない手は無い。N君なら空身で往復1時間、後から追いかけてくれば良い。でも誰も積極的に薦めなかった。N君も、後でこの決断を感謝することになる。小屋の周りには、色とりどりの高山植物が今を盛りと咲き競っている。M君、ミヤマオダマキに見とれて転倒。1m右は断崖絶壁。山小屋のテラスから思わず悲鳴がもれる。ここから、地獄の障害物競走が真砂岳まで続く。痩せ尾根の下を径は巻いているが、やっと歩けるぐらいの岩の出っ張った狭いガタガタ径。次々に切り立った岩が現われる。左足下は、数百メートル崩れた断崖絶壁。

東澤乗り越しには、小池がありほっとする。途中で出会った中年の女性二人ずれ、「次々に障害物の連続ですよ」と、やっと終わったといった感じ。「いやー、ここから水晶までも障害物競走ですよ」と激励。ここから、真砂分岐までは、今までとは違った大きな岩の連続。印の付いた岩を見落とさないように足場の岩を選ぶ。緊張の連続。ポールが邪魔になったり役だったり忙しいこときりが無い。ワングル諸君なら一度は、裏銀縦走をした経験があるだろう。「そんなに大層なこと無かったよ」と思っているだろう。僕も10年前の記憶ではそんなものだ。しかし、このコース絶対に老人向きでは無い。80才お断り。「身軽で脚力のある若者向きコース」と、シルバー4人の一致した意見。と、まーなんやかんやと愚痴りながらも足を運ぼうち、真砂分岐が見えてきた。

Tリーダ、「後でゆっくり行く。場合によってはビバークして明日までには小屋に行くよ」。学生時代に何度か経験のあるT君なら本気でビバークしかねない。『老人パーティーの無謀登山：広大ワングルOB、82才の仲間を置き去り』の新聞見出しが目につかぶ。そこで、M君と僕の2人で先に小屋に行き、N君にT君を任せ、後から遅れて2人が来る旨伝えることになった。そのM君、昨日の疲れて飲んだビールが悪かったのか、腹の調子が良くなく、ランチもパス。でも気力で頑張っている。野口五郎の巻き道で風が出てきて寒くなる。小屋まで後700mの標識のところで雨が降り出したので、雨具を着ける。これは正解。もう少しと思って我慢していれば、低体温症になっていたかも。5時過ぎ野口五郎小屋に到着。小屋の主人が心配して戸口で待っていてくれた。

乾燥室で雨具やザックカバー等乾かし、二人部屋に落ち着く。休んでいると「お仲間、もうすぐ着きますよ」と主人が教えてくれる。T君とN君が美しい夕焼けをバックに小屋をめざして降りてきている。6時半無事到着。M君は夕食抜き。残り3人も食欲無し。カレーライスを残してしまった。N君、大好きなビールをパス。今日は、結局11～12時間半かかってしまった。明日は、トータルで431mの登りと2054mの下りが待っている。一晩で回復できるのかな。

7月29日 5時前、茜に染まる遠くの空。富士山がくっきり浮かんでいる。きっと昨夜の星と天ノ川はきれいだったはず。でも皆、横になったとたん朝4時までぐっすり。

今日も快晴。小屋の裏手より早速の登り。今日のリーダは、僕。先が長いので急ごう。と言っても息切れしない程度にゆっくり歩む。広い砂地の尾根が続く。斜面にピンクの小さなコマクサの群落。このあたりは、コマクサの宝庫だ。左手に、水晶岳から続く赤牛岳の大きな尾根。その向こうに、今日のはっきりと薬師岳の頂上が青空と一線を画して鎮座して見える。風をよけて朝日に暖まりながら朝食代わりのおにぎりを食べる。1個はお昼用に残しておいた。表銀の大天井尾根が聳えている。歩いていると、前方遠くに黒部湖が、その正面には立山とその陰に劔岳が望まれる。左手の長大な尾根筋は、五色ヶ原から薬師岳までの峰。五色の雪渓はここから観ても大

きく広い。N君は2年次の合宿である尾根を縦走したという。しばらく行くと、後方に槍が見えてきた。

日が昇るにつれ、身体全体が爽やかな風と静寂に包まれる。コマクサもハイマツも朝の光と朝露を享受している。烏帽子小屋を今朝出発したパーティー何組かに合う。皆、三俣蓮華山荘までだそうだ。若いから、昨日悪戦苦闘した障害物も、ホイホイだろう。三ヶ岳の巻き道を過ぎて、快適な尾根筋を歩いてきたとき、困ったことにもよおしてきた。前後どこにも人影は無い。足場の良いハイマツの陰で雉子打ちを終えたところ、二人ずれのパーティーが通り過ぎるでは無いか。何故か、この尾根のハイマツは背丈が低くて、頭も隠せない。まーいいか。ホモ・サピエンスはこの間まで自然とともにあったのだ。「アハハハ（名誉教授も顔色なしですね）アハハハ」と、N君喜ぶことしきり。加藤則芳著「メインの森をめざして：アパラチアン・トレイル 3500 キロを歩く」によれば、トレイル中はスコップを持参して、穴を掘って埋めるのが原則だそうだ。熊や野獣に知られないためとか。それ知ってたから、僕だって手で砂を掘ってしっかり埋めておいた。54才の加藤氏バックパックで、ジョージア州のスプリングガーマウンテンからマウントカナディアンまでの3500KMを完歩している。ジョン・ミュアやソローを愛するナチュラルリスト。

10時前、烏帽子小屋に到着。お花畑を前にして昼食。M君、何も食べないで寝転んで休んでいる。今から、日本3大急登の1200mを降るけど、T君膝が持つかどうか心配している。リーダーの僕は、5時までに着くかどうか心配。N君、『下り3時間半』の標識見て「リーダー挑戦しますか?」。N君の冗談もここまで。ここから最後の試練が始まる。

標高差100m毎に番号が振ってある。山小屋裏の尾根が0、それから降るに従って数字が増えていく。登る人は逆に数字が減るのがうれしいというわけ。この下りは全て樹林に覆われている。時たま木々の切れ目からなだれ落ちている山が見える。花は?ほとんど目に入りません。それどころではないのです、少しでも径から目を離すと木の枝や石に乗って滑り落ちます。一步一步慎重に降ります。朝にダムを出発したパーティーが次々に登って来る。登ってくる方は、皆元気。反対に降る方は、よろよろ。手がかりの無いところには、梯子がかかっている。2本ポールのM君と僕は、だいたいポールに頼って前向きで降りるが、ポールは老人くさいとおもっているN君は、仕方ないので岩や枝や草を掴んで後ろ向きで降りていく。この下り行程の3分の1ぐらいは後ろ向きに歩いていたのでは。T君? 1本ポールで、一番慎重に遅れて降りてる。時折、右遙か下に、白みを帯びた美しい空色の高瀬ダム湖が見える。降ること2時間、やっと三角点(4番)に着いた。休んでいた5人組の中年パーティー、我々が80才パーティーで、雲ノ平を経てきたことを知ると、愕くことしきり。皆から、「勇気をもらいました」と今回2回目の感謝をされた。遅くとも、5時にはダム(12番)まで降りれるめどが付いた。

後800メートルの下り。どこをどうやって降りたか覚えていない。ただ無心に降るのみ。ここで、足を滑らしては大変。とにかく慎重に一步一步降るのみ。その内ダム湖も近づいてくる。午後4時、濁沢の登山口に無事到着。膝筋肉を痛めたT君も足を引きずりながら降りてきた。2日間食事を摂らずただただ精神力で歩いてきたM君、一番元気なはずのN君も憔悴しきっている。シルバー4勇士、150%以上の体力を出し尽くし、ハイタッチ(涙)。やったね(笑顔)。

ダムに架かる不動沢の長い吊り橋を渡り、長いトンネルを抜けダムの突堤にたどり着く。ダム下流の葛温泉の高瀬館に到着。惜しげも無く流れ込む源泉の露天風呂に浸かり、4日間の疲れを癒やす。ああ極楽、天国。冷たいビールで乾杯。

皆さん、一度雲ノ平行きたいなら新穂高温泉からのルートがお奨め。急にメンバーが足らなくなっても、決して僕を誘わないで下さい。室岡は、忘れっぽいのです。1ヶ月もすれば、辛かったことなどきっぱり忘れ、斜面いっぱい咲くニッコウキスゲやコバイケイソウの群落を思い起こし、雪溪を抱いた雄大な尾根、チングルマやシナノキンバイ、ハクサンフウロ、もろもろの花*花、あの青空の下、砂利尾根に心地よく揺れる可憐なコマクサ、前後左右見渡す限り幾重にも

連なった緑青の峰峰、ハイマツに寝転んで雲の流れをぼんやり眺めながら、山の静寂に身を任している姿しか思い浮かべないのです。ましてや自分の年さえ忘れてしまうのです。

この旅には、まだおまけがありますが、紙面（力）が付きたのでご報告はこれくらいに。

2022年8月4日

会員情報

(1) 新入会員について

広大マスターズ幹事 岩田 賢司

本年度は下記の2名の新入会がありました。

田中 伸和 氏（元自然科学支援開発セ）

横藤田 誠 氏（元人間社会研）



【広島大学マスターズ事務局】

（郵便物宛先）〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29

東広島市市民協働センター内 メールボックス No.5「広大マスターズ」

Eメール：masters@hiroshima-u.ac.jp

URL：（会員版） <https://masters.hiroshima-u.ac.jp>

（かわら版） <https://hirodaimasters.web.fc2.com/index.html>